

第 3 回札幌市国際戦略プラン懇談会 発言のポイント

ポイント	委員の発言
ワールドカフェについて	<ul style="list-style-type: none"> -外国人市民のみに意見を聞く場があっても面白い。(熊谷委員) -国別の出席者内訳があると良い。(佐藤委員)(熊谷委員)
国際戦略の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> -基本方針をⅠ, Ⅱ, Ⅲに分けて、さらに具体的な柱があるという構成は分かりやすく良い。(佐藤委員) -基本方針Ⅰ「札幌を拠点にする」を最初に持ってくることで片方向の感じが出てしまう。基本方針Ⅱ「市民一人ひとりが創造性を発揮していきいきと暮らす地域づくりを進める」を方針の初めに持ってくるとうわかりやすい。また、「札幌を拠点に」という表現ではこちらも出て行き、その結果として戻ってくるという動きが感じられない。(石井座長) -重点戦略と基本方針とのつながりが見えない。外から取り込む、内から発信するというように少しわかりやすく整理した方がいい。(加藤丈委員) - (基本方針Ⅰ) 拠点ではなく、札幌圏という言い方もある。(加藤由委員) -基本方針Ⅱに多文化共生をイメージさせる言葉を入れるべき(加藤丈委員) -3本柱とした場合、基本方針Ⅲだけが軽い。(加藤丈委員) -基本方針Ⅲは基本方針Ⅰの一部という位置づけと考えられる。(石井座長)
基本方針のまとめ方	<ul style="list-style-type: none"> -「来る、行く、場」という立て方がわかりやすい。(加藤丈委員) -基本方針Ⅰは取り込む。Ⅱはこちらから行く。発信には技術協力や国際的な人材育成を含む。(加藤丈委員) -基本方針のⅠは交流というか経済を主として外部から取り込み、こちらからも発信する。Ⅱは市民の意識の問題。Ⅲは施策の柱の3番目の創造的な都市、空間づくりという環境づくりを主にした方針にする。札幌の技術を活用した国際協力という環境面に焦点をあてる。(佐藤委員)
施策の柱	<ul style="list-style-type: none"> -施策の柱Ⅰの「札幌の魅力資源の活用による国際観光・経済の活性化」とそのサブタイトルの「札幌経済の国際化」という言葉がわかりにくい。(石山委員) -積雪寒冷地という言葉に捉われすぎである。文言を変える時期ではないか。(石山委員) -まちづくり戦略ビジョンに沿って、外部と交流し、技術を持ってくるという視点をかなり強く意識した方がいい。(石井座長) -どこかに創造性は入れたい。(熊谷委員)

ポイント	委員の発言
	<ul style="list-style-type: none"> -いきいきと暮らす地域づくりということをもう少し広げた方がいい。(石井座長) -前提としての市民への理解の浸透具合が不明なので、施策の柱Ⅱの説明の言い回し(札幌の歴史、文化にふさわしい)を変えた方がいい。(木村委員) -雪と結び付けて、札幌らしさをアピールするキャッチフレーズを考える。(佐藤委員)
理念	<ul style="list-style-type: none"> -難しい単語は使わない方がいい。(木村委員) -今後 10 年で何をどう変えたいのかを示すのが理念である。(加藤丈委員)
重点戦略分野	<ul style="list-style-type: none"> -重点戦略としてのターゲットを明確にしないと、何をやるのか具体的な方向性が出せなくなる。(石井座長) -〇〇シティというキャッチフレーズをつけ、端的に札幌を言い表すものがあれば良い。(加藤丈委員) -出ていく場面をどう作っていくかということが、国際的な人材を定着させるためのキーワードなので、当面の施策になるのではないか。(石井座長) -インフラの輸出は、札幌が外に出て行くときの経済的なインセンティブである。協力という意味でもつながる。(石井座長) -人材育成はベーシックに常に行われるべきものであって、集中的にやる重点戦略に位置付けるのは違和感がある。(石井座長)
【札幌ライフ】	<ul style="list-style-type: none"> -札幌の生活を売るという視点が重要。大都市でありながら自然と共生しているということをもっと前面に出した方がいい。(石井座長) -次世代を担う人材育成、外国人のための安全・安心なまちづくりも全て包括された札幌ライフというのが良い。四季折々の自然や気候をもっとうまく出したい。(加藤由委員) -誰に対しての札幌ライフなのかが大事であり、アジアの中で強調するのであれば印象付け方も変わってくる。全て想定すると網羅的になってしまう。(加藤丈委員)
【戦略展開の考え方について】	<ul style="list-style-type: none"> -横断的な連携強化に JNTO も入れて頂きたい。(石山委員) -横断的な連携強化について、外国人市民がまちづくりに参加するという視点と、色々な機会に常に外国籍市民がいるというのが一番いいと思う。(加藤丈委員) -ターゲット地域の明確化について、欧米と積雪寒冷地の交流というのはテーマが明確化というより分散している気がする。(熊谷委員)
【外国人のための安全・安心なまち】	<ul style="list-style-type: none"> -日本人と同じように外国人市民も安全に生活できると書かなければ、誤解をまねきそうだ。(加藤由委員)

ポイント	委員の発言
づくり】	<ul style="list-style-type: none"> -長期滞在者と短期滞在者では対策が違うはずなので分けた方が良い。(石山委員) -「外国人の視点に立った」とすると良い。(加藤丈委員) -“快適”など、外国人にも暮らしやすいという意味合いでまとめるとすっきりする。(石井座長)
アクションプラン施策項目案	<ul style="list-style-type: none"> -芸術・文化・スポーツについて、札幌のように野球、サッカー、バスケットボールのプロチームが三つもある地域は日本でもなかなかないので、国内にも、アジアの観光客にも受け入れられるものになるよう発信してほしい。(石山委員) -観光客に喜ばれるのは雪まつりやスキージャンプ、中島公園である。(加藤由委員) -PMF について、短期的に次のステージは何をするかなど、長く続けるための問題抽出をしておく必要がある。(石井座長) -札幌市と北海道が協働して、ビザに対する障壁を低くする取り組みを行っていくべきである。(石山委員) -マレーシアの教育庁が学生の相互交流の受付やセッティング等の対応を行い、クオリティを上げている。現在日本には対応部署がないので、この機会に整理するのも必要である。(石山委員)
その他	<ul style="list-style-type: none"> -インフラ整備にW i f i の整備は必ず入れていただきたい。まず地下歩行空間と地下街を完全にフリーW i f i にして、スマートフォンのアプリで観光情報が全て見られるようにしたい。(石山委員)